

先輩農業者インタビュー



新規参入

園芸

新潟県三条市

中野 貴史

(新潟県出身)

就農のきっかけ

～実家の農業を継ぎたい～

高校卒業後、地元の自動車部品工場に就職し、群馬県へ1年間転勤しました。そこで真冬でも畑に立つ農家の姿を目にし、「農業だけで生計を立てられるのか」と強い感銘を受けたことが、農業を意識するきっかけでした。

実家は米農家で、以前から「いつかは継ぎたい」という思いはありましたが、新潟県で安定した農業経営を行うには、冬場の収入確保が不可欠だと考え、六次産業化に可能性を見出しました。

農産物の加工・販売を学ぶため、三条市下田地区の「漢学の里しただ」に入社。10年間勤務し駅長を任されるまでになりましたが、夢である農業経営に挑戦するため、2024年に「ナカノファーム」を設立しました。

夢の農業経営のスタート

～6次化産業の取組～

現在は、サツマイモ 30a、キャベツ 10a の栽培を行っています。あわせて加工施設を整備し、焼き芋、ポテトフライ、コロツケ、実家の米を使ったおにぎりや笹団子などを製造しています。加工はパート従業員2名とともにしています。

販売は、高速道路パーキングエリア、直売所、道の駅への出荷に加え、キッチンカーによるイベント出店など、対面販売にも力を入れています。キャベツはJA共選場へ出荷し、サツマイモはJAの貯蔵施設を活用することで、必要な時期に販売・加工できる体制を整えています。

特に地元野菜「ごんぼっ葉」を使用した笹団子は、食感が良いと評判で、直売所では午前中に完売する人気商品となっています。

2026年4月にジェラート店を事業継承して燕三条の果物や野菜をメインにしたジェラートも提供を始めました。



～農業経営を支える基盤づくり～

農地は、実家近くの遊休農地を賃借しています。資金面では自己資金に加え、国の経営発展支援事業を活用しました。

栽培や経営については、地域農家の方々、野菜部会の先輩農家、県の普及指導員から指導を受けながら、日々技術向上に努めています。



今後の展開

～農業の魅力と想い～

生産・加工・販売のすべてに関われることが、六次産業化農業の最大の魅力です。自分で育てた作物を、自分の手で商品にし、お客さまから「おいしい」と言っていただけることが、何よりのやりがいです。

～今後の展開～

青年等新規就農計画で立てた5年計画は、2年目で達成できる見込みです。今後は、サツマイモ・キャベツの面積拡大に加え、トウモロコシ、枝豆、サトイモ、自然薯、ブロッコリーなど新たな品目にも挑戦していきます。

就農希望者へのメッセージ

～新規就農を目指す方へ

就農にあたっては、「何を作り、どこに、どれだけ売するのか」を明確にすることが重要です。品質向上だけでなく、販売戦略を考えることが安定経営につながります。

また、人とのつながりは大きな力になります。行政、JA、地域の方々との関係を大切にし、情報収集を続けながら、自分の描く農業を形にしていけることが大切だと感じています。

令和7年8月 経営支援課取材